

令和 4 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	中学 8	学校名	県立下館第一高等学校附属中学校				課程	—		学校長名	赤田部 清浩					
教頭名	谷島 敏浩								事務(室)長名	棚井 一博						
教職員数	教諭	12	養護教諭	1	常勤講師		非常勤講師	1	実習教諭、実習講師、実習助手		事務職員		技術職員等		計	14
生徒数	1年		2年		3年		合計		合計		合計		合計			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
	20	20	20	20	20	20	60	60	60	60	3	3	3	3		

2 目指す学校像

<p>【目指す学校像】 自主自立の精神を有し、地域のリーダーや国際社会で活躍する人財を育成する学校</p> <p>【育てたい生徒像】 様々な変化に積極的に向き合い、多様な人々と協働して課題を解決する力や、新たな価値を創造する力を持つリーダー</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 答えなき課題にも論理的な思考で探究を重ね、主体的にチャレンジする生徒 ○ 豊かな表現力・コミュニケーション力を身に付け、他者と協働しながら課題を解決できる生徒 ○ 未来のリーダーとして活躍できる、知・徳・体のバランスのとれた生徒

3 現状分析と課題

項目	現状分析	課題
学習指導	55分授業と授業時数増により、時間にゆとりをもたせ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業を目指した。コロナ禍でのオンライン授業等で、教師のICT機	学年が上がるにつれ、生徒一人一人の学力差が大きくなってきている。アクティブラーニングの視点からの授業改善、少人数、TTの授業の充

別紙様式 1 (中)

	<p>器の活用技術が向上し、普段の授業の中での I C T機器の活用が定着してきた。</p>	<p>実を更に進めていく必要がある。中学校と高校、教科間の連携をより密にしていきたい。</p>
生徒指導	<p>複数担任制における学年運営を通して、生徒一人一人に寄り添った関わりを目指した。心の安定や人間関係づくりに配慮した支援体制の構築を推進した。ほとんどの生徒が、学習に対して前向きに努力し、基本的な生活習慣を身に付け生活できている。個別の教育相談や家庭との連携、補習授業等で対応してきた。</p>	<p>人間関係や学習のつまずきに対して悩む生徒がおり、学校を休みがちになる生徒が出てきた。生徒一人一人に寄り添った指導、家庭との連携を更に密にし、よりよい人間関係の構築のための取組を活性化させていく。(特別活動と道徳の充実)</p>
キャリア教育	<p>校外における体験活動の実施が難しい状況の中でも、工夫しながらキャリア教育に関する実践的・体験的な活動を大切に授業を目指した。将来の夢や希望について、考えを深めることができた生徒が増えてきた。</p>	<p>小学校、中学校、高等学校をつなぐ組織的・体系的なキャリア教育を更に充実させ、将来に対しての意欲をもたせていきたい。キャリア・パスポートの効果的な活用についても課題である</p>
特別活動	<p>集団活動を通して、自己や学校生活を捉え、課題を見だし、その改善・解消に向けてよりよい集団や学校生活を目指した。学校行事においては各実行委員会を中心に積極的に参加できた。附属中生徒会を立ち上げ、これから中学校独自の委員会活動を行っていく。</p>	<p>学級活動における話し合い活動を活性化していきたい。また、附属中独自の生徒会等の組織、体制を確立させ、自発的、自治的な活動を充実させる。キャリア・パスポートによる積み重ね、振り返りを大切にしたい。</p>
働き方改革	<p>報告・連絡・相談と指導・助言・調整が機能的に働くよう I C T機器を積極的に活用した。質の高い効率的な組織運営の実現を目指し、適切な役割分担と連携のある組織づくりを推進した。「きんむくん」を活用して勤務時間を管理した。</p>	<p>業務の効率化に向けた I C T機器の活用を更に推進していく。仕事内容等の精選・合理化に関する職員の意見を積極的に取り入れ、実現していきたい。</p>

4 中期的目標

<p>1 問題解決的な学習や協働的学習スタイルの授業を展開し、習熟度別学習や TT での指導を充実させることで、基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成を図る。(附属中学校 7 校の連携、総合的な学習の時間【地域探究セミナー】の活用)</p> <p>※ 数値目標：《生徒授業アンケート》先生は、生徒一人一人に合ったアドバイスをしてくれる (4 段階評価) 平均 3.0 以上</p> <p>《生徒授業アンケート》生徒どうして話し合ったり、先生に質問したりできる時間がある (4 段階評価) 平均 3.0 以上</p>
<p>2 複数担任制を生かし、正確な生徒理解に努めるとともに、よりよい人間関係の構築のための取組を活性化する。</p> <p>※ 数値目標：欠席者 0 の日 95 日以上、《生徒アンケート》学校が楽しい (4 段階評価) 平均 3.5 以上</p>
<p>3 附属中独自の生徒会等の組織、体制を確立させ、自発的、自治的な活動を充実させる。</p> <p>※ 数値目標：《生徒アンケート》行事への積極的な参加 (4 段階評価) 平均 3.0 以上</p>
<p>4 中高一貫教育校として 6 カ年教育の経営に全力を注ぎ、新たな魅力ある学校づくりを推進する。</p> <p>※ 数値目標：中学志願倍率 2.0 倍</p>
<p>5 仕事内容等の精選・合理化を進め、業務の効率化を図り、時間を意識した働き方についての改善・改革を推進する。</p> <p>※ 数値目標：全職員が時間外勤務月 45 時間以下、学校全体として 1 つ以上の事業の削減</p>

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成	<p>①問題解決的な学習や協働的学習スタイルを積極的に取り入れ、附属中学校 7 校連携事業や総合的な学習の時間で身に付けた手法を生かした授業を展開する。</p> <p>②習熟度別学習や TT での指導の充実を図る。</p> <p>③校内研修の充実を図る。</p> <p>④中学校と高校、教科間の連携をより密にし、教育課程の特例を十分に生かした学習指導を行っていく。</p> <p>⑤ ICT 環境の効果的な活用による学習の個別最適化を推進する。</p>

別紙様式 1 (中)

<p>正しく判断し、思いやりのある生徒の育成</p>	<p>⑥複数担任制を生かし、より正確な生徒理解に努め、個に応じた指導を効果的に行う。 ⑦全員で協力して実践する活動等を工夫し、意図的に設定する。 ⑧学校内はもちろん、校外においても元気な挨拶を励行する。 ⑨道徳科の授業を充実させ、道徳的価値の理解と実践力を育成する。 ⑩職員間の共通理解を図り、同一内容での指導を徹底する。</p>
<p>特別活動の充実</p>	<p>⑪附属中独自の生徒会組織体制を確立し、生徒会活動の活性化を図る。 ⑫学級活動における話し合い活動の充実を図る。 ⑬近隣の中学校や小学校と連携した取組を計画、実践する。 ⑭学校行事の改善充実を図り、中高一貫校としての新たな伝統の継承に努める。 ⑮キャリア・パスポートを積極的に活用し、積み重ね、振り返りを充実させる。</p>
<p>広報活動の推進と地域との連携</p>	<p>⑯生徒主体の学校説明会や学校公開を企画、実施する。 ⑰ホームページの更新回数を増やしたり、学校案内等を刷新したりするなど積極的な情報発信に努める。 ⑱探究活動等における筑西市や地元企業との連携を強化する。 ⑲小学校・学習塾等への訪問を効果的に実施する。 ⑳学校評議員会、PTA、同窓会等との連携を強化する。 ㉑高校と有機的に連携し、魅力ある学校づくりに全職員一丸となって取り組む。</p>
<p>働き方改革の実現</p>	<p>㉒各校務部及び学年等で協議したり、個別に職員の意見を聞いたりして仕事内容等の精選・合理化を進める。 ㉓役割分担を細分化、明確にすることで業務の効率化を図る。 ㉔ICT機器を効果的に活用した情報伝達・共有を更に推進していく。 ㉕働き方改革に対する教員の意識を向上させる。</p>